発行:令和 3 年 10 月 22 日

会 議 議 事 録

会議名	令和3年度第2回 東京工科自動車大学校三校 教育課程編成委員会		専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校 東京工科自動車大学校品川校
開催日時	令和3年10月12日（火） 15:00 ～ 17:00		
会場	東京テクニカルカレッジ テラホール（全体会） 11階教室(分科会)		
参 加 者	委員	19名	【出席者17名】 ◇1 級教育課程分科会 ・佐藤 康夫（全体会議長、1 級分科会議長） ・佐々木 章 ・酒井 彦樹 ・宮谷 真樹 ・増田 智秀 ・保田 正義 ・園田 幸祐 ・淺井 恵一(書記) ◇2 級教育課程分科会 ・松村 道隆（2 級分科会議長） ・武井 和則 ・国分 秀貴 ・永野 英臣 ・清 宏一郎 ・高橋 輝彦 ・油井 文江 ・坂本 康将 ・開田 実（書記） 【欠席者2名】 ・伏見 一洋 ・井上 真一
	事務局	1名	澁谷 健（全体会書記）
全体会 配布資料 報告事項 協議事項	―――――――――――― 全体会 ―――――――――――― 〈配布資料〉 ・議事次第 ・資料A・・・全体会説明資料（パワーポイント） ・資料B・・・高専連携教育プログラム **1. 委員長挨拶** 委員長より挨拶として下記の説明・報告がなされた ・令和3年度教育活動の進捗報告 ・文科省委託事業「高専連携教育プログラム」への取り組み紹介（学園広報・影山より） **2. 議事** **2－1. 前回議事録の確認** ・事務局より令和3年度第1回教育課程編成委員会の議事録の概要について改めて確認がなされた。 **2－2分科会 議長・書記の選出 出席者の確認** 事務局提案により ・1級課程分科会 議長:佐藤委員長、 書記:淺井委員 ・2級課程分科会 議長:松村委員、 書記:開田委員 →全員一致で承認 以上をもって、全体会を散会とし、分科会に移行した		

1級分科会 配付資料	―――――――――――――― 1級教育課程分科会 ―――――――――――――― 配付資料 ● インターンシップカリキュラム内容(案) ● インターンシップ評価書(案)
協議事項	**1. 議題** 企業実習の目標と評価について 前回の議論で(学外委員の皆様より)いただいたご意見を踏まえて，今日は学校の方から提案をさせていただき，さらに議論を重ねる。(佐藤議長) **2. 要旨** ①園田委員より提示されたカリキュラム(案)は現状の30項目がまとめられ見やすく，現場(サービス工場)にも指示を出しやすいと(学外委員の皆様より)評価いただいたことを受け，2022年度はこのカリキュラム(案)を持ってインターンシップを実施し，2022年度の1級分科会において実施後の検証を行う。ただし，”シラバス”という言葉は現場(企業側)からするとわかりにくいので，”カリキュラム”と表現する。 ②以下のご意見を踏まえて再度，学内で調整し，年内に学外委員の皆様へ郵送等の方法で提案を行う。 ②-1 評価が5択だが，中間を設けず6択か4択が良いのではないか。 ②-2 ライン間の報・連・相だけではなく，”コミュニケーション”の評価が入っても良いのではないか。 ②-3 ”手先の器用さ・正確さ等の”作業要領の評価が入っても良いのではないか。 **3. 発言内容** ① ・(提示したカリキュラム案は)前回，30項目あった内容を10項目にまとめました。(園田委員) ・(作成後に気が付いたが，)インターンシップ依頼先企業によっては”お客様対応”等，実施が難しい面があるかもしれないと思った。(園田委員) ・(提示されたカリキュラム案は)ディーラー目線であれば，わかりやすく，現場に指示が出しやすい。(学外委員) ・(提示されたカリキュラムを)実施困難な企業様の場合，仕事が存在しなければ仕方がない話だし，代替を考えてくださるのではないか。(このカリキュラム案をベースとして考えれば良いのではないか)(学外委員) ・職業実践専門課程として，インターンシップの質の保障と評価を公表できるしっかりとしたベースが必要だ。(佐々木委員) ・これ(提示したカリキュラム案)をもとにインターンシップを実施してまた，評価していただいて改良すると良いのではないか。(佐藤議長) ・”シラバス”と言う表現は現場(サービス工場)ではわかりにくいので”カリキュラムと表現して欲しい。(学外委員) ② ・(提示した評価書案は)以前から使用していたものの項目を見直ししました。(園田委員) ・評価項目がカリキュラムとリンクしていない内容ですが問題ないでしょうか。(佐藤議長) ・(提示された評価書案は)評価方法としてやりやすく，リンクしていなくても良い。(学外委員) ・(提示された評価書案は)5拓ではなく，真ん中がない6択か4択の方が評価書として適正ではないか。(学外委員) ・”コミュニケーション力”の評価項目があっても良いのではないか。(学外委員) ・インターンシップ生は工員として登録されていないが，どこまで作業をやらせて良いのか。(学外委員) ・振興会経由で問い合わせをしています。(学外委員) ・”手先の器用さ”という項目があると良いのでは。(学外委員) ・本日の意見を加味した最終案は，三校で調整し，年内に企業様に郵送で確認をいただく方法でいかがでしょうか。(佐藤議長) その他 ・外国人が増え，語学力の差，文化風習の差が(企業での)指導上の障害になっている。そのノウハウや情報を企業とも共有できる様，他校に先駆けて対応して欲しい。(学外委員) ・コロナ明けには考えたい。仕上げる体制を作りたい。(佐々木委員)

2級分科会 配付資料	―――――――――――――― 2級教育課程分科会 ―――――――――――――― 配付資料 ①2022年度中野校自動車整備科、1級自動車整備科(2級課程) 科目配置(案) ②2022年度中野校エンジンメンテナンス科 科目配置(案) ③中野校履修科目 変更理由詳細(参考資料)
協議事項	**〈議案〉:** **1. 中野校自動車整備科 削除科目(案)報告** **・現在の2級課程75科目中、優先順位の低い科目についての説明 (第1回分科会メイン)** **2. 2級課程で、必要となる科目(内容)についての意見聴取** **〈報告及び意見聴取〉** 1. 中野校自動車整備科 削除項目(案)報告 今後2級課程の授業内容を改善するためにも、次年度は**優先順位の低い**科目を削減することにより、授業のスリム化をし、教員の新たな教科の作成時間を捻出したい。そのために、前回7月の会議にて委員の皆様より頂いたご意見を基に、中野校整備科の削除項目の(案)を作成いたしましので、ご説明します。との趣旨説明がなされた。 ・各科科目配置、時間数の説明。 ・現在の科目全体の時間コマ(90分)数は、国土交通省の指定時間コマ数より10%を超えるバッファがある為、3科目削除した状況で運営をし、スリム化したい。 ・国交省指定時間数ギリギリであると休んだ時に補講となり教員には負担となる可能性も否定はできない。 ● 削減科目は、前回の委員から頂いた意見の中より以下の3科目として提案する。 1) 自動車化学(1年2期実施 学科科目16コマ) ・危険物乙種四類の試験対策的な科目である。 今後は受験を任意とし必修科目から外す。 2) ディーゼルの噴射ポンプの整備(2年2期実施 実習科目20コマ) ・昨今の車両で機械式燃料噴射ポンプを使用している車両は少なく、また今後は全て電子制御化される事から実習としては不要な科目であり、学科科目で補える。 3) オートマチックトランスミッションの整備(2年3期 実習科目20コマ) ・もともと非分解科目であり、現在小型車はCVTへ、大型車はAMT移行しているため、削除しても大きな問題はなく。知識としては学科科目で補える。 ＊さらにエンジンメンテナンス科に対しても、同様の説明がなされた。 カリキュラムの変更に関しては、校長会・理事会を経て、中野区に提出することとなる。 → 次年度は実際に時間数が減ることになるが、授業料も減ることになるのか。 ➢ 学費に関して変更はない。 今後のカリキュラム改善の為である。 **※上記内容から、科目削減について委員全員からの了承を得た。** 2. 2級課程で必要となる科目の意見交換 次年度は今回の削除科目に代わりに、どのような科目を追加すればよいかを必要な技術的な観点で意見を頂きたい との発言がなされた。 →オートマチックトランスミッションの整備科目だが、CVTが主流であればCVTの実習を追加した方が良い。 →2030年以降、エンジンを搭載するクルマが少なくなるので、これから増えるであろう電気自動車にかかわる電気的な基礎授業を強化する必要があるのではないか。 →最近の車両はスキャンツールを用いないと整備ができないので、スキャンツールを扱うために基礎的な電気回路や理論を教える必要がある。 →2級課程の学生と1級課程の学生の違いは、スキャンツールを使いこなせるか否かに差があると思われる。 ➢ 現状のカリキュラムでも一部でライントレース等のプログラム基礎を教えているが、委員の方の意見は、貴重な意見として捉えたい。 →法令科目が存在するが、「法令順守」「コンプライアンス」である。トヨタの不祥事の例ではないが、法令順守をしないがために企業は大きなリスクを抱える。 その意味合いをしっかり教えてほしい。新人教育で法令順守やコンプライアンスとは何かを訪ねると理解している人は皆無である。

	→ソーシャル検定の科目では、「法令順守・コンプライアンス」「CSR」等は教えていないのか。科目配置を見る限り、他の科目は具体的な科目名で分かりやすいのに、就職プログラムは内容が具体的ではなく、学生が魅力に感じない。非常にもったいない。 専門学校の役割は「技能・知識」を教えることと「人間力」を養うことにあるのではないか。そこに具体性を持たせるべきである。 ➢これらの科目配置は、あくまでも科目を並べたものであり、以前示したとおり、シラバスとコマシラバスが存在します。学生へはシラバスとコマシラバスを提示し行っている。今回はあくまでも技術的な科目追加の意見を頂きたくこのような資料となりましたが、貴重な意見として参考とさせていただきます。 ・次年度なりますが、皆様から頂いた意見をまとめ、次年度の委員会では、具体的な追加科目案を提示できればと考えております。その際にはご協力をお願いいたします。 以上の議長の発言にて散会となる。
会議風景	【1級課程分科会】 【2級課程分科会】
事務局より 次回日程	令和4年6月、10月を予定

以上